

普及活動情勢報告（令和元年 11 月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

令和 2 園芸年度 第 1 回目のトマト現地検討会開催



農業法人の従業員も
多数参加

10月29日に春野地区でJA高知県春野トマト部会の現地検討会が開催され、生産者9名が参加しました。今年は例年より高温で推移したことから、普及所から温度管理の改善による障害対策について説明しました。参加者からは、今年は果実の着色不良が多かったのが参考にしたいとの感想がありました。

普及所は今後も産地のニーズに合った技術、情報を発信することで、安定した生産が出来るよう支援していきます。

湿度管理で病害対策 ～高知なす、米なす現地検討会の開催～



意見を交わす生産者

11月6日に春野地区でJA高知県春野なす部会の現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。普及所からは湿度管理による病害対策について情報提供し、更に冬場に向けたハウス内管理のポイントについて説明しました。生産者からは、温度設定や湿度が関係する病害について多く質問が出され、活発な会となりました。

今年は例年より9月、10月の温度が高く推移していますが、厳寒期でも安定した生産が行えるよう、関係機関と協力して取り組んでいきます。

環境制御技術アドバイザーによるサポート事業 ～キュウリ現地検討会～



個人面談はモニターを見ながら

環境制御技術アドバイザーによるサポート事業が始まりました。これは、モデル生産者が生育調査結果、環境データをもとにアドバイザーからの指導を受けられるものです。10月24日には高知市春野町において、アドバイザーである（株）デルフィー日本の麻生氏を招き、午前中はモデル生産者の個別面談、午後は生産者13名の参加の下、現地検討会を行いました。普及所からは、取り組み内容や生育状況を説明し、環境データについては、若手生産者3名のデータを比較しながら説明しました。

普及所は、アドバイザーから栽培管理技術やコンサルティング力を学ぶとともに、産地全体への環境制御による増収効果の拡大を目指し、JAと連携して支援を行っていきます。

出荷場を出るまで、しっかり GAP を実践しましょう！



危険はたくさん潜んでいます！

11月6日、JA高知県春野集出荷場の作業員63名を対象に、GAP研修会を開催しました。

JA高知県春野集出荷場では、昨年度から、作業員1人1人の意識向上のためにGAP研修会を実施しています。普及所からは、昨年に引き続きGAPの考え方や取り組み方を紹介しました。さらに、JA販売課から、実際に出荷場で起きた異物混入事例を紹介し、事故を防ぐための一層の意識向上を呼びかけました。

今後も普及所は、出荷場および生産者GAPの実践を呼びかけ、産地全体で「良い農業」に取り組めるよう支援をしていきます。

高知県の農業を知る -高須小学校出前授業-



授業を行う様子

11月7日、高須小学校において小学五年生約80名を対象に出前授業を行いました。小学校では、日本の農業の課題や食料自給率の改善を考える学習に取り組んでおり、今回普及所からは、高知県の取り組みとスマート農業等の最新技術を中心に紹介しました。生徒たちは、実際の現場の写真や動画を注意深く見つめており、より具体的なイメージを持つことができたようでした。

生徒たちは今後「農業の課題に対し自分たちにできること」の研究を進めることになっており、普及所では助言や情報提供を通じて学習を支援していきます。

高知地区農村女性リーダー「お宅訪問」（はちきん農大流通講座（追加講座）共催）



ハウス内での意見交換

10月31日に現地研修を行い、農村女性リーダーを中心に9名が参加し、研修を行いました。最初にグロリオサを栽培する農村女性リーダー宅を訪問し、いろんなステージでの栽培の様子や芽出し庫を見学し、経営の概要や栽培管理の手順などについて話を聞きました。

次にJA高知県園芸流通センターを訪問し、ターミナル内での作業の様子を見学しながら、野菜・花が全国に出荷される流通工程について勉強しました。また敷地内に併設されている農薬検査センターで、農薬残留検査について学びました。

参加者は、栽培の苦労話や業務の説明に聞き入り積極的に意見交換を行いました。

普及所では、今後も女性の学習の場づくりを支援していきます。